

【主な仕様】

■燃料電池ユニット

		2018 年度モデル		(参考) 現行品
発売日		平成 30 年 4 月 2 日		平成 28 年 4 月 1 日
性能	発電出力	通常運転時：50W～700W 自立運転時：700W		同左
	定格発電効率※4	都市ガスモデル	L P ガスモデル	同左
		52.0%(LHV※4) 46.9%(HHV※4)	51.0%(LHV※4) 46.0%(HHV※4)	
	定格総合効率※4	都市ガスモデル	L P ガスモデル	同左
		87.0%(LHV※4) 78.5%(HHV※4)	85.0%(LHV※4) 76.7%(HHV※4)	
	貯湯タンク容量	28 リットル		同左
	貯湯温度	約 70℃		同左
外形寸法 (燃料電池ユニット)		W780×H1220×D330(mm) (突起部のぞく)		W780×H1195×D330(mm) (突起部のぞく)
重量 (燃料電池ユニット)		標準モデル 100kg 自立運転機能付き 106kg		同左
設置スペース (燃料電池ユニット)		約 0.9 m ²		同左
セット用給湯器メーカー		ノーリツ製、パーパス製、リンナイ製		ノーリツ製
定期交換部品		10 年間交換不要		同左
逆潮流対応※5		「逆潮流あり・逆潮流なし」 の切替が可能		同左

※4 低位発熱量基準 (Lower Heating Value) にて算出。LHVとは燃料ガスを完全燃焼させたときに生成する水蒸気の凝縮潜熱を発熱量に含めない熱量。

高位発熱量基準 (Higher Heating Value) にて算出。HHVとは燃料ガスを完全燃焼させたときに生成する水蒸気の凝縮潜熱を発熱量に含めた熱量。

※5 逆潮流対応については、ガス事業者などによる「余剰電力買取」等の対応が行われた場合に限り実施することができます。